

# レクリエーション活動の再開に向けた 新型コロナウイルス感染拡大予防 ガイドライン

令和2年5月20日  
(令和2年6月22日改訂)  
(令和2年7月10日改訂)  
(令和2年7月17日改訂)

特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会

# 目次

|   |  |     |
|---|--|-----|
| 1 | はじめに   | 1   |
| 2 | レクリエーション活動の再開に当たっての基本的な考え方                   | 2   |
| 3 | 全てのレクリエーション活動に共通する対応（共通事項）                   | 3～4 |
| 4 | 各種レクリエーション活動における対応（個別事項）                     |     |
|   | （1）レクリエーション種目                                |     |
|   | ①ゴルフ（グラウンドゴルフ、ターゲット・バードゴルフ、マレットゴルフ、フラットゴルフ等） | 5   |
|   | ②ダンス・体操（フォークダンス、民踊、3B体操、ADL体操、車椅子レクダンス等）     |     |
|   | ③テニス（ハウンドテニス、ミニテニス、パドルテニス、タスポニ等）             | 6   |
|   | ④陸上・野外（ジョギング、マラソン、オリエンテーリング、ウォークラリー等）        |     |
|   | ⑤球技（インディアカ、ドッジボール、キンボールスポーツ、テーブル等）           | 7   |
|   | ⑥的当種目（ペタンク、ユニカール、スポーツエルネス吹矢、クリティ、ポッチャ等）      |     |
|   | ⑦対面種目（スポーツチャンバラ等）                            | 8   |
|   | ⑧文化種目（健康マージャン、かるた等）                          |     |
|   | （2）レクリエーション指導                                |     |
|   | ①幼児  | 9   |
|   | ②児童・生徒・学生                                    | 10  |
|   | ③高齢者   | 11  |
|   | ④障がい者  | 12  |
|   | ⑤企業（会社）                                      |     |
|   | （3）レクリエーション体験イベント・県営公園                       | 13  |
|   | （4）テキスト・動画配信・オンライン                           | 14  |
| 5 | チェックシート                                      | 15  |

# 1 はじめに

5月14日の緊急事態宣言解除を受け、15日に古田肇岐阜県知事より「コロナ社会を生き抜く行動指針」が示され、県民に対し、「コロナとともにある（with corona）新しい日常（new normal）」、すなわち「コロナ社会」を生き抜く指針が方向づけられました。

本ガイドラインは、この方針を受けて、①各種レクリエーション活動を再開するに当たっての基本的な考え方や、②再開後における感染拡大予防のための留意点、そして、③コロナ禍においても人の心を元気にするレクリエーションの心構えについてまとめたものです。

各市町村レクリエーション協会並びにレクリエーション種目団体等におかれは、本ガイドラインに従ってレクリエーション活動を行っていただくとともに、各指導者においても、参考にしてください。また、市町村および各施設等における方針やガイドラインを作成しているケースがあるため、そちらも必ず確認してください。種目団体については、各中央競技団体のガイドラインも併せて確認してください。

なお、レクリエーション活動の実施に際しての新型コロナウイルス感染症への感染を防止するための方策については、羽島市民病院の監修を受けて作成しております。今後の知見の集積および各地域の感染状況を踏まえて、適宜見直すことがあり得る事にご留意をお願いいたします。

## 2 レクリエーション活動の再開に当たっての

### 基本的な考え方

- 全国的かつ大規模なイベント等の開催については、感染リスクの対応が整わない場合は中止又は延期するよう、慎重な対応をとることが必要です。
- イベント開催制限の段階的緩和の目安（※）に準じたイベント等については、適切な感染防止対策（本ガイドライン）を講じた上で実施することが可能です。

（※）「イベント開催制限の段階的緩和の目安」

- ・ 6月19日～
  - 屋内：収容率50%以内（人数上限1,000人）
  - 屋外：十分な間隔※できれば2m（人数上限1,000人）
- ・ 7月10日～
  - 屋内：収容率50%以内（人数上限5,000人）
  - 屋外：十分な間隔※できれば2m（人数上限5,000人）
- ・ 8月1日を目途
  - 屋内：収容率50%以内（上限なし）
  - 屋外：十分な間隔※できれば2m（上限なし）

（注）収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。

- 比較的少人数のイベントであったとしても、イベント等を開催するためには、以下のような条件を満たす必要があります。

- ・ 三つの密（密集・密閉・密接）の発生が原則想定されていないこと。
- ・ 大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと。
- ・ その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること。

### 3 全てのレクリエーション活動に共通する対応（共通事項）

- ・本対応は、大会やイベント、講習会や会議、各種施設等、幅広いレクリエーション活動における総合的な感染防止対策について、実施体制、3密（密集・密閉・密接）、衛生の面から示しています。
- ・共通事項とあわせ、個別事項を参照いただき、感染防止を徹底してください。
- ・なお、これから夏を迎えるにあたり、水分補給や適切なエアコンの利用など、熱中症対策を踏まえた感染防止が求められます。

#### ○実施体制

- ・大会等実施時において、感染症防止対策の実施に責任を持つ「対策実施責任者」を選任。
- ・感染防止が行われているか確認できる「チェックシート（※参照）」を用意。
- ・参加者の氏名、年齢、住所、電話番号を把握、または岐阜県感染警戒QRシステムを活用する（発症時における迅速な利用者の追跡のため）。
- ・参加者に感染拡大防止（マスク着用、会場での手指消毒、人との距離をとるなど）の対応。

- |   |
|---|
| <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大会募集時や最終案内にて感染拡大防止の周知。</li><li>・受付時の健康確認（参加者及び家族を含む周囲の方に発熱やその他風邪症状がある方は参加を控えていただく。）</li><li>・受付や会場内に感染拡大防止の協力を啓発するポスター・張り紙の掲示。等</li></ul> |
|---|

- ・イベントの前後の打合せ等においても、3つの密を避け、会話時にマスクを着用。

#### ○衛生対策

- ・入口及び施設内に手指消毒設備を設置。
- ・適宜手洗いができるような場を確保し、ハンドソープを設置する。
- ・会場は十分な清掃に努める。
- ・用具および機材、机、椅子、ペン、バインダーなど、不特定多数が触れる部分は、事前事後に次亜塩素酸ナトリウム溶液等を使用して消毒を行う。
- ・ロッカールーム（更衣室）は短時間かつ少人数で利用する。
- ・共有物品を最小化。
- ・ごみの回収者は、必ずマスクや手袋を着用し、処理後は手洗いをを行う。
- ・喫煙所の利用を禁止する。

## ○密集対策

- ・人との距離確保（できるだけ2m、最低1m）。

- ・密集とならない会場レイアウトの設定。

（例）

- ・ 入場導線、待機場所、控室、更衣室など十分な導線や空間の確保。
- ・ 入退場など、原則として一方通行の流れをつくる。
- ・ 椅子を使用する場合は、持ち運びできる椅子は席と席の間隔を空けて設置し、固定席は前後左右の隣接する席を空けて使用等。

- ・ 入場者数を制限し、滞在時間を短時間とした運営。

（例）

- ・ 人と人との距離の確保がとれる、ゆとりのある人数で行う。
- ・ イベントの進行を過密にしないタイムテーブルの設定。
- ・ 開催時間の縮小の検討。
- ・ 開閉会式は内容を簡素化し、通常の半分以下の時間とする方法を検討等。

- ・ スタッフ休憩は時間と場所を分散した休憩、食事等の徹底。

## ○密閉対策

- ・ 頻繁な換気。

（例）

- ・ 2方向の窓開けによる通気の良い換気、自動ドアの常時開放、換気扇の常時稼働、扇風機の外部へ向けての使用等。

## ○密接対策

- ・ マスクの着用。

（例）

- ・ 指導者や発言者、スタッフはマスクを着用。ただし、呼吸困難や熱中症防止のため、適宜休憩をとりマスクを外す場面をつくる。
- ・ 参加者は受付、着替え、開閉会式等の運動を行っていない間、特に会話をするときには、マスクを着用等。

- ・ 受付等、人が密接する場面における対応。

（例）

- ・ 人と人が対面する場所は、受付スタッフと受付をする参加者の距離を最低1m離すか、アクリル板・透明ビニールカーテン等、パーティションで遮断。
- ・ 列の間隔を確保（最低1m）する床サインなどを実施。
- ・ 代表者が行うなど、必要最少人数とする。
- ・ インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるよう努力する等。

- ・ ハイタッチや握手、声援は控える。

## 4 各種レクリエーション活動における対応（個別事項）

### （1）レクリエーション種目

#### ① ゴルフ（グラウンド・ゴルフ、ターゲット・パートゴルフ、マレットゴルフ、フラットゴルフ等）

○ 屋外種目で密閉の機会が少なくなる一方、滞在時間が長かったり、開閉会式や休憩時間の食事、組（グループ）で行動する等密集や密接の機会があるゴルフの特性から、以下の感染防止対策を実施。

・ プレースタイルを変更し、滞在時間を短縮。

（例）

- ・ 通常3ゲーム（ラウンド）のところ、2ゲーム（ラウンド）とする。
- ・ 通常36ホールのところ、18ホールとする。
- ・ 開閉会式は距離の確保がとれない場合は中止とする等。

・ 1組の人数は4人以内とし、距離の確保を常にとる。

・ プレー以外（食事や会話をするとき等）はマスクを着用。

・ スコアカードの記入は個々または1人で行う。

・ ゼッケンやペン等多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。

・ クラブ、ボール等は自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

#### ② ダンス・体操（フォークダンス、民踊、3B体操、ADL体操、車椅子レクダンス等）

○ ダンスは輪をつくり向かい合って踊ったり、手を取りあって踊ったりと身体的距離が近く、体操は用具を使用したりすることから、以下の感染防止対策を実施。

・ サークルや対面した場面での発声の禁止。または発声する場合はマスクの着用。

・ 発声者同士、または発声者とそれ以外の者との間隔を2m以上確保。

・ 飲食の提供は避け、水分補給のみとする。

・ マイクの使い回しは避けるか、消毒を徹底する。

・ 体操で使用する用具は自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

### ③ テニス（バウンドテニス、ミニテニス、パドルテニス、ダブルミニ等）

○ 狭い場所でも手軽にできるレクリエーション種目の各テニスは、屋内で手軽にプレーできるように、通常のテニスよりコートが小さくなっているため、各コート間が狭かったり、コートの大きさに対する人数の割合が高くなってしまふことから、以下の感染防止対策を実施。

・ 人との距離の確保を意識したコート設営や選手・審判・スタッフの配置。

（例）

- ・ 通常10コートのところ、5コートとする（会場の大きさによる）。
- ・ 選手が審判を兼ねる“セルフジャッジ制”を導入し、人数を縮減。
- ・ ダブルスや団体戦は行わず、シングルスのみとする等。

・ 審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。

・ ラケットは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。

### ④ 陸上・野外（ジョギング、マラソン、オリエンテーリング、ウォークラリー等）

○ これらの種目は公園や道路を使用するため、自分たちの感染防止対策はもちろん、一般の方への配慮も求められることから、以下の感染防止対策を実施。

・ 人が多い場所や時間を避ける。

・ ジョギングは大人数やグループではなく、一人で走り、可能な範囲でマスクやバフの着用も検討する。

・ マラソンイベント等では、始点、休憩所、終点にできるだけ手洗い場を確保する。

・ オリエンテーリングやウォークラリーは、プレー中に会話をする際はマスクを着用するか、距離の確保をとる。

・ 食事前、帰宅後には、こまめな手洗い、うがいを励行。

・ 遠方は避け、身近な自然や近所で楽しむ。

・ 不要な入院や通院を避けるため、ケガのリスクの高い活動や身体的に負担のかかる挑戦的な行動は行わない。

・ 運動中に唾や痰をはかない。

・ ゴミは全て持ち帰り、トイレは家ですませておく。

## ⑤球技（インディアカ、ドッジボール、キンボールスポーツ、テーブル等）

○ 1つのボール（球）を参加者が共有する衛生面のリスク、団体行動による密集・密接の機会、また、ほかの種目より子どものプレーヤーが多いため保護者による応援等、球技ならではの特性から、以下の感染防止対策を実施。

- ・多数の者が触れるボール（球）を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ボール（球）は適宜消毒する。
- ・観客同士が密とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らす。
- ・大声での声援を送らないことや会話を控える。会話をする場合にはマスク着用
- ・審判が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・バットやグローブは自分のものを使用する。貸し出す場合は、使用前後に消毒する。
- ・ゼッケンといった多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。

## ⑥的当種目（ペタンク、ユニカール、スポーツウエルネス吹矢、クロリティー、ポッチャ等）

○ 的を目がけて、投げる・滑らす・転がす・吹くといった動作を行う種目で、用具を参加者が共有することで生まれる衛生面のリスク、特に、吹矢は飛沫感染のリスクをできるだけ低減することが重要であり、以下の感染防止対策を実施。

- ・用具を重点的に消毒する。

（例）

- ・ペタンクのボール、ビュット、メジャー。
- ・ユニカールのストーン、専用ワックス。
- ・スポーツウエルネス吹矢の的面。
- ・クロリティーのリング。
- ・ポッチャのポッチャボール等。

- ・多数の者が触れる用具を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ゼッケンといった多くの人が共有する物の使用はできるかぎり控える。
- ・スポーツウエルネス吹矢は、くしゃみや咳等で生ずる飛沫感染と同じようなことが起こるため、特に感染防止策が必要である。一般社団法人日本スポーツウエルネス吹矢協会が示す「活動再開にあたっての注意事項（5/15）」を参考にされたい。

### ⑦対面種目（スポーツチャンバラ等）

○ 対面式のレクリエーション種目であり、特に対戦相手と近接するリスクを考慮し、以下の感染防止対策を実施。

- ・ 打突競技といった接触が想定される対面場面をできるだけ避ける。
- ・ 用具を重点的に消毒する。

（例） ・ スポチャン面、エアソフト剣、楯、籠手（こて）等

- ・ 観客同士が密とならないよう、あらかじめ観客席の数を減らす。
- ・ 大声での声援を送らないことや会話を控える。会話をする場合にはマスク着用。
- ・ 多数の者が触れる用具を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないようにすること。
- ・ エアソフト剣等はできる限り自分のものを使用する。

### ⑧文化種目（健康マージャン、かるた等）

○ 牌や札を高頻度にさわる衛生面のリスク、対戦相手が近接のため常に密接のリスクが発生することから、以下の感染防止対策を実施。

- ・ 競技の際はマスクを着用する。
- ・ 器具を重点的に消毒する。

（例） ・ マージャン器具は、高頻度に接触することから、できる限り1ゲームおきに消毒または除菌する。  
・ マージャンは、机と椅子も消毒する等。

## (2) レクリエーション指導

### ① 幼児

- 幼児は指導者や友達との身体接触が多い、言葉のみの指導では伝わりにくい、五感を使って学ぶといった特性に加え、保護者と一緒に狭い部屋で参加する場面もあり密集のリスクも発生することから、以下の感染防止対策を実施。

- ・ 密集を避ける工夫。

- |     |  |
|-----|--|
| (例) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 集合や整列等、人との距離を確保する際はテープやコーン等で目印をつける。</li><li>・ 通常の指導時間が40分のところ、20分とする。</li><li>・ 屋内指導1回あたり100人を超えるため、回数を分けて1回の人数を減らす(会場の大きさによる)。</li><li>・ 人との距離(2m)を伝える際、言葉だけの説明ではなく、「身近なもの」で2mの距離を伝えたり、「動物」や「乗り物」になって模倣遊びをしたりする等、楽しく理解できるような指導を心掛ける。</li><li>・ タッチや近接した会話を求めてきた際は、頭ごなしに否定するのではなく、笑顔いっぱい受け止め、距離を空けるよう優しく指導する等。</li></ul> |
|-----|--|

- ・ 指導者はマイクを活用し、できる限り大声を出さないよう配慮する。
- ・ 指導者が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。
- ・ 元気よく発声するミナモダンスや歌遊びは、屋外または少人数毎に分けて行う。
- ・ 手遊びや歌遊び等をする際は、幼児同士、又は指導者と幼児との間隔を2m以上確保。
- ・ 紙芝居やマジック等をする際は、幼児同士が密集・密接とならないよう、隊形を注意する。
- ・ 親子体操は、親子でふれあいつつも、他の親子との間隔は十分とる。
- ・ 指導が終わったら、必ず手洗いをする。
- ・ 共有する器具を重点的に消毒する。

- |     |   |
|-----|---|
| (例) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ パラシュット、トンネルくぐり。</li><li>・ 的当てに使うワナゲやボール、ドッチビー。</li><li>・ 大なわとび、フラフープ。</li><li>・ マット、跳び箱、鉄棒、バランス平均台、遊具等。</li></ul> |
|-----|---|

- ・ 終始笑顔で、温かみのある指導が望ましい。

## ②児童・生徒・学生

○ 児童（小学生）は幼児期と比べ友達との関わりが濃くなる、生徒（中高校生）は様々なレクリエーションを楽しむようになる、また、学生（大学生）はそれらに加え、自身もボランティア活動を通してレクリエーションに携わる機会が増えるといった特性から、以下の感染防止対策を実施。

・相手と対面したり身体接触するようなレクリエーションは控える。

（例） ・キャッチ、ジャンケンハンカチ取り、タイ・タコ等の少人数遊び。  
・ジャンケン列車、木こりとリス、ことろおに等の集団遊び。  
・対面式のスポーツ・レクリエーション等。

・3密を避けるレク活動や、家でできるレク活動を実践又は紹介する。

（参考） ・（公財）日本レクリエーション協会「レクぽ」内の「学校で三密を避けて楽しめるレク活動」や「おうちの中で楽しめる運動・あそび～子ども向け～」

・指導中及び指導前後においても、子ども同士の密度を下げて、不要な接触を避ける。

・指導者が使用するホイッスルは、笛型より電子ホイッスルを推奨。

・できる限り大声を出さないようマイクを活用する。

・準備及び片づけにおいて、近距離になる状況を避ける。

・呼気が激しくなるような運動の際は、常に窓を開放する等、より十分な換気を行う。

・ハイタッチや握手等の身体接触を避ける。

・共有する器具を重点的に消毒する。

（例） ・ドッジビー、円盤ディスク、ドッジボール等。  
・ボードゲーム（マンカラ、オセロ、将棋、囲碁等）。  
・カードゲーム（トランプ、かるた、スキヤキ・ジャンケン等）。  
・マット、跳び箱、鉄棒、平均台、遊具等。

・多数の者が触れる用具（ボール等）を使用する場合は、手で目・鼻・口等を触らないよう指導する。

・ボランティアとして活動する際は、感染防止対策を行うスタッフとしての心構えを持つ。

・安全安心で元気な指導が望ましい。

### ③高齢者

○ 高齢者は健康に対して関心が高く、体操や脳トレ、歌唱、種目等、屋内外問わず幅広いレクリエーションを行い、活動が終わった後の懇親も楽しみの一つである。また、感染後のリスクが高いことを十分に考慮し、以下の感染防止対策を実施。

- ・参加者の健康状態をチェックし、少しでも体調が悪い場合は、参加を遠慮してもらう。
- ・密集を避ける工夫。

(例) ・通常の指導時間が1時間のところ、30分とする。  
・歌唱者同士、または歌唱者とそれ以外のものとの間隔を2m以上確保。  
・大声又は大人数での歌唱、声援行為は、屋外又は、少人数ごとに分けて行う。  
・隊形はスクール形式が望ましい。

- ・相手と対面する場合は必ずマスクを着用。
- ・身体接触するようなレクリエーションは控える。
- ・指導者はマイクを活用し、できる限り大声を出さないよう配慮する。
- ・家でできるレク活動を実践又は紹介する。

(参考) ・(公財)日本レクリエーション協会「レクぽ」内の「おうちの中で楽しめる運動・あそび～シニア向け～」

- ・指導後の懇親会等において、3つの密を避け、会話時にマスクを着用。
- ・指導が終わったら、必ず手洗いをする。
- ・クラフト等の際は、はさみやのり等の道具は、参加者ができるだけ準備をする。
- ・新聞紙、牛乳パック、折り紙等の消耗品もできる限り参加者が準備することが望ましい。
- ・レクリエーション用具で共有する用具は重点的に消毒する。

(例) ・お手玉、ワナゲ、ディスク等。  
・ボードゲーム(マンカラ、オセロ、将棋、囲碁等)。  
・カードゲーム(思い出カルタ、江戸いろはかるた、スキヤキ・ジャンケン等)。  
・健康ボール、ジャンボサイコロ等。

- ・心が元気になるよう、安心感を持った温かい指導が望ましい。

#### ④障がい者

○ 障がいの種別は様々であり個別の対応が求められることから、以下の感染予防対策を実施。

- ・参加者の健康状態をチェックし、少しでも体調が悪い場合は、参加を遠慮してもらう。
- ・障がいの種別に応じた工夫。

(例) ・視覚障がい者は、タオル等を利用して人との距離をとる。  
・聴覚障がい者は、可能であれば透明マスクやフェイスシールドを使用する。  
・知的障がい者は、大きくカラフルなコーンを目印に使い人との距離をとる。  
・肢体不自由者は、人との距離をとる会場レイアウトの設定等。

- ・その他、個別に応じた感染防止対策を行う。
- ・指導者はマイクを活用し、できる限り大声を出さないよう配慮する。
- ・身体接触するようなレクリエーションは控える。
- ・手遊びや歌遊び等をする際は、参加者同士、又は指導者と参加者との間隔を2 m以上確保。
- ・指導が終わったら、必ず手洗いをすること。
- ・共有する用具を重点的に消毒する。

(例) ・円盤ディスク、ソフトバレーボール等。  
・パラシュット、エアボール等。  
・ペタンク、ボッチャ等。

- ・安心安全にリラックスして、笑顔あふれる指導が望ましい。

#### ⑤企業（会社）

○ 企業（会社）は職員の健康づくりや、職員間の交流といった場面が多いことから、以下の感染防止対策を実施。

- ・ミナモ体操（脳トレ含む）を推奨。
- ・短時間（20分以内）かつ限られた空間で楽しめるレクリエーションを紹介する。
- ・対面で行う場合はマスク着用する。換気を十分に行う。
- ・指導が終わったら、必ず手洗いをすること。
- ・お互いに気持ちよく実施できるように、楽しみながらできる指導が望ましい。

### (3) レクリエーション体験イベント・県営公園

- 様々な世代や業種の方が参加することが想定される体験イベントでは、運営面のリスク、用具を介しての接触感染や、一定の場所に密集しやすくなるリスクをできるだけ低減することが重要であり、以下の感染防止対策を実施。

| 防止対策  | 具体的な例・留意点  |
|-------|--|
| 運 営   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「感染症防止対策責任者」を1名選任する。</li> <li>○「新型コロナウイルス感染症対策チェックシート」を活用。</li> <li>○イベント当日に、参加者から以下の事項を書面にて求めることが重要。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・氏名、年齢、住所、電話番号</li> <li>※個人情報の取扱いに十分注意。</li> <li>・イベント当日の体温</li> <li>※当日受付において検温する際は、非接触式体温計を推奨。</li> <li>・咳やのどの痛みなど風邪の症状、濃厚接触の有無、海外渡航歴の有無等。</li> </ul> </li> <li>○岐阜県感染警戒QRシステムを活用。</li> <li>○感染者が発生した場合、保健所等の指示のもと、そのほかの参加者に対して連絡をとり、症状の確認をする等調査に協力すること。</li> <li>○参加者に感染拡大防止の協力を啓発するポスター・張り紙の掲示等。</li> </ul> |
| 密 集   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常のイベント時間が4時間の場合は、2時間とする。</li> <li>・体験コーナー同士の間隔を十分空ける。</li> <li>・受付や体験コーナーに並ぶ際は、列の間隔を確保（最低1m）するようコーンやテープ等で目印をつける。</li> <li>・受付等、人と人が対面する場所は、机を2つ挟んで対応するか、アクリル板・透明ビニールカーテン等、パーティションで遮断等。</li> </ul>   |
| 密 閉   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内で行う際は、常に窓やドアを開放するか、換気設備（業務用エアコン等）を利用等。</li> </ul>  |
| 密 接   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大声での発声や歌唱等があるアトラクションや、近距離での会話が想定される余暇相談コーナーや似顔絵コーナー等は、感染予防対策が講じれないと判断した時は実施しない等。</li> </ul>  |
| 衛 生 面 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・退場の際は、必ず手洗いや消毒を徹底させる。</li> <li>・参加者が触れる用具（ドッジビーやボール等）は適宜、消毒する。余裕があれば、消毒済みのものを用意しておき、1組ごと取り換える等。</li> <li>・参加賞は小分けにする。</li> </ul>   |
| 心 得   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者とスタッフの間隔が離れてしまうため、いつもよりさらに笑顔を絶やさず、参加者が安心して参加できるような雰囲気をつくることが大切。</li> </ul>  |

#### (4) テキスト・動画配信・オンライン

- レクリエーション指導者派遣やミナレク講習会、レクリエーション研修会等においては、3密など感染予防対策を講じて実施する。ただし、集合形式が困難な場合は、以下の方法により実施することが可能である。

| 実施方法  | 具体的な例   |
|-------|---|
| テキスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストや写真、解説による分かりやすい。</li> <li>・自主的に個別で取り組むことができる課題を提供。</li> <li>・絵やクラフト等、作成した作品を提出又は紹介。</li> <li>・冊子、CD、DVD等を作成し、研修をサポート等。</li> </ul>   |
| 動画配信  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユーチューブやフェイスブック、インスタグラム等の活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「岐阜県レクリエーション協会公式チャンネル」を活用。</li> <li>・指導内容に沿った動画の作成。</li> <li>・参加型の工夫。</li> </ul> </li> <li>○ホームページの活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容に沿った写真掲載や紹介。</li> <li>・指導内容に沿った動画の作成。</li> </ul> </li> </ul> |
| オンライン | <ul style="list-style-type: none"> <li>○Zoom等、オンラインの活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルタイムでの指導が可能。</li> </ul> </li> </ul>  |

## 新型コロナウイルス感染症対策チェックシート

●イベントや会議等を開催する際には、このチェックシートをご活用いただき、記載の各項目の実施を徹底出来ているかどうか確認のうえ、開催していただきますようお願いいたします。

| No.                     | 対 応 項 目  | チェック   |
|-------------------------|--|--|
| <b>▶開催前に事前に行うことに関して</b> |  |  |
| 1                       | イベントや会議等の中で感染者が発生した場合、参加者は、保健所などの聞き取りに協力する、また濃厚接触者となった場合は、接触してから2週間を目安に自宅待機の要請が行われる可能性があることをあらかじめ参加者に周知する。 | <input type="checkbox"/>                             |
| 2                       | マスク着用を周知する。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 3                       | 体調の悪い方の参加は認めないことをあらかじめ参加者に周知する。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 4                       | 過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方には、参加を認めないことをあらかじめ周知すること。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 5                       | 開催規模（人数）を縮小する。（屋内は5,000人以下かつ定員の半分以下、屋外は5,000人以下かつ人と人の距離を十分に確保する）   | <input type="checkbox"/><br><input type="checkbox"/> |
| 6                       | 開催時間を短縮する。   | <input type="checkbox"/>                             |
| 7                       | 会場の換気設備の適切な運転・点検を実施する。   | <input type="checkbox"/>                             |
| 8                       | 声を出す機会を最小限にする。マイクの使いまわしは避ける。   | <input type="checkbox"/>                             |
| <b>▶開催会場の環境に関して</b>     |  |  |
| 1                       | 会場に入る際の手洗いた、イベントの途中においても適宜手洗いができるような場を会場内に確保する。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 2                       | 主に参加者の手が触れる場所をアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したもので拭き取りを定期的に行う。（レクリエーション用具、ドアノブ、スイッチ類、机、椅子、マイク等）                        | <input type="checkbox"/>                             |
| 3                       | 会場の入り口等にアルコール消毒液を設置する。   | <input type="checkbox"/>                             |
| 4                       | 人を密着させない環境を整備する（人と人が手が届く範囲以上の距離を保つ、入退場に時間差を設ける、入口と出口を分離する、列の間隔を確保するための床サイン等の実施など）                          | <input type="checkbox"/>                             |
| 5                       | 定期的または連続的に外気を取り入れる換気を実施する。   | <input type="checkbox"/>                             |
| <b>▶受付時の対応に関して</b>      |  |  |
| 1                       | 参加時に体温の測定ならびに症状の有無を確認する（匂い・味覚の鈍さを含む）。マスクの着用。   | <input type="checkbox"/>                             |
| 2                       | 体調の悪い方には、参加を認めない。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 3                       | 過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方には、参加を認めない。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 4                       | 来場者の連絡先の登録を実施する。   | <input type="checkbox"/>                             |
| 5                       | 「岐阜県感染警戒QRシステム」を利用する。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 6                       | 上記1~3の対応を行った上で、発熱者や具合の悪い方が特定された場合には、接触感染のおそれのある場所や接触した可能性のある者等に対して、適切な感染予防対策を行う。                           | <input type="checkbox"/>                             |
| 7                       | 咳エチケットや頻繁な手洗い、長時間の滞在を控えるように呼びかける。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 8                       | 参加した者の中に感染者がでた場合には、最寄りの保健所の指示の下、そのほかの参加者に対して連絡をとり、症状の確認するなど調査に協力する。  | <input type="checkbox"/>                             |
| 9                       | 共有物の適正な管理又は消毒の徹底等を実施する。  | <input type="checkbox"/>                             |